毎月5日・15日・25日発行(ただし1月5日、5月5日、8月15日は休刊)　ISSN 1881－4417

ROTOBO Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会　2021年(令和3年)1月15日号　No.1847

目　次

コロナ禍と改憲を経たロシアの行方 ……服部 倫卓 1
新型コロナウイルス感染拡大に関するロシアの対応 ……ROTOBOモスクワ事務所 17
統計速報 …… 29
2020年1～11月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／29
2020年1～11月の日ロ貿易／30
キーパーソン …… 33
キルギス元首相、大統領に当選／33
エトセトラ …… 33
ロシア・リャザン州貿易投資セミナー開催／33
日露エネルギー・環境対話イン新潟開催／33
トピックス …… 34
ホテルオークラ、ロシア初の日系ホテル開業へ／34
ロシア極東でマイクログリッド実証運転開始／34
JCB、ウズプロムストロイバンクと提携／34
NIS諸国の新型コロナウイルス関連ニュース／35

コロナ禍と改憲を経たロシアの行方

ロシアNIS経済研究所　所長
服部 倫卓

はじめに

世界中が新型コロナウイルスのパンデミックに揺れた2020年が去り、コロナ危機を抱えたままではあるが、新たな2021年を迎えた。本稿では年頭に当たって、甚だ雑駁とはなるが、図表なども用いながら2020年のロシアを回顧するとともに、2021年以降の展望を論じてみたい。

改憲への同意は取り付けたものの

思い起こしてみれば、2020年のロシアは、年始から激しい動きを見せた。年明け早々の1月15日、V.プーチン大統領が年次教書演説を行い、憲法改正を提案した。また、不人気だったD.メドヴェージェフ内閣を退陣させ、新たにM.ミシュスチン内閣を発足させた。新内閣は、「ナショナルプロジェクト」という政策枠組みを通じて、ロシアの積年の社会・経済的課題の解決に邁進する構えを見せた。

当初、プーチンの改憲提案は、自らの任期が切れる2024年以降も何らかの形で権力を保持し、「院政」を敷くための布石との見方が有力だった。ところが、その後、憲法改正案に新たな条項が加